

魅力ある地域の遺産

—目黒区エリアの景観・歴史・環境遺産—

2015年開催の第24回保存問題東京大会時に、東京14地域会の協力のもと「未来へ継承したい環境・景観・建造物・建築物」をテーマにまとめ、大会シンポジウムで各地域会から発表されました。その時の資料をベースに「未来へ継承したい風景」として連載しています。



目黒地域会
木村丈夫

目黒地域会では2008年の会発足以来、年に2回程度、一般の方を交えてまち歩きを行い、地域内の魅力ある建物や界隈を記録してきました。ここに掲載するのは、2015年の保存問題東京大会用に選んだもので、どれも魅力ある地域の遺産であり継承したいものです。

旧前田侯爵邸本邸・和館

国指定重要文化財

設計：塚本靖（東大教授）、高橋禎太郎（宮内省内匠寮）／1929（昭和4）年

加賀前田家16代当主前田利為の本邸。利為が外国からの賓客を迎える本格的邸宅を目指して建てた。昭和初期の建築であるが、西欧の大邸宅様式を日本に再現した数少ない事例。敷地環境を含め貴重な文化遺産である。



旧前田侯爵邸本邸・和館

日本民藝館本館・西館（旧柳宗悦邸）

本館1936（昭和11）年、西館1935（昭和10）年

柳宗悦が陶芸家の濱田庄司や河合寛次郎らと「民藝」運動を興したのが1925年。駒場に自宅を建て運動の拠点となる日本民藝館の開設を目指した。旧柳宗悦邸（西館）は、栃木県から移築した明治初期の長屋門と柳の設計による母屋からなる。道を隔てた本館は民藝運動の本拠として建てられた。

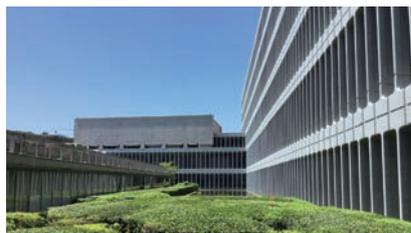


日本民藝館本館・西館

目黒区庁舎

設計：村野藤吾／1966（昭和41）年

旧千代田生命本社を区が買い取り、耐震補強ののち庁舎として再利用。建築家村野藤吾が残した職人的なデザイン意匠を尊重し、区役所として機能するために必要な模様替えは、安井建築設計事務所によって慎重に行われている。先代が残した建築遺産を大切に使い続けている模範例。



目黒区庁舎

大塚文庫

設計：大江宏／1989（平成元）年

大塚正夫の個人コレクションの美術工芸品を収蔵展示するために私邸の敷地内に建築した美術館。現在は貸しギャラリーとして利用されている。コンクリート造ではあるが、随所に和風の趣のデザインがみられる。特に2階から上っていく3畳間の「富士見亭」は外観上の特色にもなっている。



大塚文庫

天台宗経王山文殊院円融寺釈迦堂

国指定重要文化財

室町中期（1400年前後）

唐様+和洋で、単層入母屋造り、屋根は銅板葺き。木割の繊細さは鎌倉円覚寺に通ずる優雅な建物。釈迦堂は国指定重要文化財で、東村山市正福寺地蔵堂（国宝指定）に次ぐ都内で二番目に古い木造建築物。



天台宗経王山文殊院円融寺釈迦堂

目黒不動尊(泰叡山瀧泉寺)

808年創建。五色不動、江戸三大不動として有名。江戸期には、江戸の三富(富くじ販売)で庶民に親しまれた。858年から枯れることのない湧水「独鈷の瀧」がある。枯れたことのない湧水が、災害時の拠点として活躍する可能性がある。



目黒不動尊

駒沢オリンピック公園総合運動場

会場設計：高山英華、芦原義信、村田政真 他／1964(昭和39)年

総合運動場。陸上競技場-RC、体育館、屋内球技場-RC・鉄骨造。国民体育大会の会場として利用されていた運動場を、施設を整え第18回オリンピック第二会場として使用された。日本建築学会賞特別賞受賞。その後総合運動場として諸機能を充実させ、現在も広く都民に利用され、親しまれている。



駒沢オリンピック公園総合運動場

自由が丘界限

目黒区南部に位置し、自由が丘駅には東急東横線と大井町線が乗り入れている。高級住宅街と駅周辺を中心とする商業施設が程よい距離感で共存し、休みの日には多くの人々が訪れ、毎年住みたい街ランキングにも選ばれる。大型商業施設や幹線道路などがなく、楽しい歩行空間が形成されている。



自由が丘界限

目黒インテリアストリート

目黒通りは、白金高輪から世田谷等々力を経て、多摩川を越え川崎横浜へ至る幹線道路。1990年代以降、大鳥神社から環七あたりにかけて自然発生的にインテリアショップがオープンし、「目黒インテリアストリート」と呼ばれるようになった。休日は歩きながらショップめぐりをする人でにぎわっている。



目黒インテリアストリート

林試の森公園

1990年から、4つの広場(1,700～5,900㎡)、デイキャンプ場、ジャブジャブ池、芝生広場、冒険広場などを整備。大部分の樹木は林業試験場時代からのもの。都内屈指の樹木の種類と数(高木6,100本)を誇る。都内のオアシスとして親しまれ、既存公共施設の再生活用の好例。



林試の森公園

目黒川沿い桜並木

昭和50年代、洪水防止の目的で川底を切り下げ、コンクリート護岸工事が行われ、同時に両岸に桜の木が植えられた。目黒川と色とりどりの橋、見事な桜並木、歩行者中心の道と個性的な飲食店や小売り店が醸し出す、大資本の介在しない自然発生的でヒューマンスケールな街並みとして、目黒区が誇るエリアの1つである。



目黒川沿い桜並木

目黒区は、緑が多く住みやすいという理由で住宅が増え続けていますが、街に緑を提供してくれていた住宅の庭が消え、敷地いっぱいに建つ狭小住宅の街並みが激増していて、大通りよりも住宅街の狭小住宅の緑化を促進する必要性を痛感しています。

これまでのまち歩きの記録は小冊子『いい緑のある住みたい街をつくろうまち歩き』にまとめられていますので、ご希望の方に配布いたします。